

コンフューザーMMの設置本数と防除効果

福島県農業総合センター果樹研究所
平成18年度農業総合研究センター試験成績概要

1 部門名

果樹 - モモ - 病害虫防除
分類コード 04-02-23000000

2 担当者

相原隆志・佐々木正剛・阿部憲義

3 要旨

モモほ場において複合交信かく乱剤コンフューザーMMの120本/10a処理と100本/10a処理を比較した結果、120本/10a処理の方が防除効果がまさった。モモハモグリガなど対象害虫の密度が高い地域では、120本/10a処理を原則とすべきである。

- (1) モモハモグリガは6～7月に試験ほ場周辺において多発した。その分散により、試験ほ場でも8月以降に増加が見られた。このような条件下においても、コンフューザーMMの処理により寄生密度の上昇は抑えられたが、その効果は100本/10a処理よりも120本/10a処理の方がまさった。
- (2) リンゴコカクモンハマキおよびナシヒメシンクイに対しても、防除効果は100本/10a処理よりも120本/10a処理の方がまさった。
- (3) 以上より、2005年および2006年のモモハモグリガやリンゴコカクモンハマキのように、対象害虫の発生が多い場合はコンフューザーMMの処理本数は120本/10aとすべきである。また近隣に多発園がある場合は、飛び込みにより防除効果が低下するので、多発園に対する対策も行う必要がある。

4 その他の資料等

平成17年度福島県果樹試験場成績概要集